

**IBM® WebSphere® Commerce**  
**for Windows NT and Windows 2000**



## **クイック・スタート**

**バージョン 5.4**



**IBM® WebSphere® Commerce**  
**for Windows NT and Windows 2000**



## **クイック・スタート**

**バージョン 5.4**

**ご注意!**

本書、および本書で紹介する製品をご使用になる前に、51 ページの『特記事項』に記載されている情報をお読みください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り IBM® WebSphere Commerce Business Edition for Windows NT® and Windows® 2000 バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本書の内容は、新版で特に指定のない限り IBM WebSphere Commerce Professional Edition for Windows NT and Windows 2000 バージョン 5.4 以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。製品のレベルにあった版を使用していることをご確認ください。

本マニュアルに関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。

<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html>

なお、日本 IBM 発行のマニュアルはインターネット経由でもご購入いただけます。詳しくは <http://www.ibm.com/jp/manuals/> の「ご注文について」をご覧ください。

(URL は、変更になる場合があります)

原典：	GC09-4952-00 IBM WebSphere® Commerce for Windows NT and Windows 2000 Quick Beginnings Version 5.4
発行：	日本アイ・ビー・エム株式会社
担当：	ナショナル・ランゲージ・サポート

第1刷 2002.6

この文書では、平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、平成角ゴシック体™W5、および平成角ゴシック体™W7を使用しています。この(書体\*)は、(財)日本規格協会と使用契約を締結し使用しているものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

注\* 平成明朝体™W3、平成明朝体™W9、平成角ゴシック体™W3、  
平成角ゴシック体™W5、平成角ゴシック体™W7

© Copyright International Business Machines Corporation 2002. All rights reserved.

© Copyright IBM Japan 2002

# 目次

<b>第 1 章 WebSphere Commerce のインストールの準備</b> . . . . .	<b>1</b>	<b>構成後のステップ</b> . . . . .	<b>32</b>
WebSphere Commerce へようこそ . . . . .	1	JavaServer Pages ファイルのコンパイル . . . . .	33
本書の表記規則 . . . . .	1	WebSphere Commerce で実行するための Payment Manager の構成 . . . . .	33
デフォルトのインストール・パス . . . . .	2	Payment Manager の設定を構成する . . . . .	34
サポートされる Web ブラウザー . . . . .	2	セキュリティ・チェッカーの実行 . . . . .	35
WebSphere Commerce で使用されるポート番号 . . . . .	3	次のステップ . . . . .	35
ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表 . . . . .	4	<b>第 4 章 WebSphere Commerce によるストアの作成</b> . . . . .	<b>37</b>
インストール前の要件 . . . . .	6	サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する . . . . .	37
知識に関する要件 . . . . .	6	ストア・アーカイブの作成 . . . . .	38
前提条件となるハードウェア . . . . .	7	ストア・アーカイブの発行 . . . . .	39
前提条件となるソフトウェア . . . . .	8	<b>付録 A. 情報の入手場所</b> . . . . .	<b>43</b>
その他の要件 . . . . .	8	WebSphere Commerce の情報 . . . . .	43
<b>第 2 章 WebSphere Commerce のインストール</b> . . . . .	<b>9</b>	オンライン・ヘルプの使用 . . . . .	43
WebSphere Commerce のインストール . . . . .	9	印刷可能なドキュメンテーションの入手方法 . . . . .	43
章チェックリスト . . . . .	9	WebSphere Commerce Web サイトの閲覧 . . . . .	44
インストール手順 . . . . .	10	IBM HTTP Server の情報 . . . . .	44
インストールの検証とトラブルシューティング . . . . .	11	Payment Manager の情報 . . . . .	44
WebSphere Application Server の始動 . . . . .	12	WebSphere Application Server . . . . .	45
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール . . . . .	13	DB2 ユニバーサル・データベースの情報 . . . . .	45
<b>第 3 章 WebSphere Commerce の構成作業</b> <b>19</b>	<b>19</b>	ダウンロード可能なツール . . . . .	46
構成マネージャーによるインスタンスの作成 . . . . .	19	WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker . . . . .	46
章チェックリスト . . . . .	19	その他の IBM 出版物 . . . . .	46
構成マネージャーの起動 . . . . .	20	<b>付録 B. プログラム仕様と所定稼働環境</b> . . . . .	<b>47</b>
インスタンス作成ウィザード . . . . .	20	<b>特記事項</b> . . . . .	<b>51</b>
インスタンス作成の検証 . . . . .	32	商標 . . . . .	53
次のステップ . . . . .	32		



---

# 第 1 章 WebSphere Commerce のインストールの準備

---

## WebSphere Commerce へようこそ

本書では、単一のマシンに WebSphere Commerce 5.4 の主要コンポーネントをインストールして構成する方法、そしてサンプルのストアの 1 つを作成する方法について説明します。対象となる読者は、システム管理者など、インストール作業と構成作業を実行する人です。拡張構成のシナリオの詳細は、*WebSphere Commerce 5.4 インストール・ガイド* を参照してください。

WebSphere® Commerce Studio のインストールと構成の手順については、*IBM WebSphere Commerce Studio for Windows NT and Windows 2000 インストール・ガイド* をご覧ください。

製品に加えられた最新の変更事項については、README ファイルをご覧ください。そのファイル、および本書の更新済みコピーは、WebSphere Commerce の Web サイトの「Library」→「Technical Library」のセクションから PDF ファイルの形式で入手できます。その Web サイトは、以下のとおりです。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/library.html>

## 本書の表記規則

本書では、以下の規則を使用しています。

太文字	フィールド名、アイコン名、またはメニュー選択項目などのグラフィカル・ユーザー・インターフェース (GUI) のコントロール、またはコマンドを示します。
モノスペース (Monospace)	示されているとおりに入力するテキスト例、ファイル名、ディレクトリー・パスおよび名前を示します。
イタリック	用語を強調するのに使用します。また、実際のシステムに合わせて該当する値に置き換えることが必要な名前を示す場合もあります。
<i>host_name</i>	WebSphere Commerce サーバーの完全修飾ホスト名 (たとえば <code>server1.torolab.ibm.com</code> は完全修飾名)。
<i>instance_name</i>	作業対象の WebSphere Commerce インスタンスの名前。
<i>drive</i>	製品やコンポーネントをインストールしたドライブを表す文字 (たとえば C: )。

## デフォルトのインストール・パス

本書でインストール・パスについて述べられている場合、デフォルトのパス名として次のものを使用します。

WebSphere Commerce 5.4	<i>drive:¥WebSphere¥CommerceServer</i>
IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55 エンタープライズ・エディション	<i>drive:¥WebSphere¥sqllib</i>
IBM HTTP Server 1.3.19.1	<i>drive:¥WebSphere¥HTTPServer</i>
WebSphere Application Server 4.0.2	<i>drive:¥WebSphere¥AppServer</i>
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	<i>drive:¥Program Files¥IBM¥PaymentManager</i>

Windows 2000 マシンでは、インストール・プログラムは以下のデフォルト・パス名を使用します。

WebSphere Commerce 5.4	<i>drive:¥Program Files¥WebSphere¥CommerceServer</i>
IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55 エンタープライズ・エディション	<i>drive:¥Program Files¥WebSphere¥sqllib</i>
IBM HTTP Server 1.3.19.1	<i>drive:¥Program Files¥WebSphere¥HTTPServer</i>
WebSphere Application Server 4.0.2	<i>drive:¥Program Files¥WebSphere¥AppServer</i>
IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2	<i>drive:¥Program Files¥IBM¥PaymentManager</i>

## サポートされる Web ブラウザー

WebSphere Commerce のツールとオンライン・ヘルプには、WebSphere Commerce のマシンと同じネットワーク上にあって Windows オペレーティング・システムが実行されているマシンにおいて、Microsoft® Internet Explorer 5.5 を使用してのみアクセスできます。Internet Explorer は、5.50.4522.1800 のフル・バージョンのもの (Internet Explorer 5.5 Service Pack 1 およびインターネット・ツール) あるいはそれ以降のものに対して Microsoft による最新の重要なセキュリティー更新を適用したものを使用する必要があります。それより前のバージョンでは、WebSphere Commerce のツールが完全にはサポートされていません。

顧客は、以下のいずれかの Web ブラウザーを使用して Web サイトにアクセスできます。これらは、すべて WebSphere Commerce でテスト済みです。



- Netscape Communicator 4.6 でサポートされている Netscape Navigator のすべてのバージョン (Netscape Navigator 4.04 および 4.5 を含む)
- Netscape Navigator 3.0 および 4.0 for Macintosh
- Microsoft Internet Explorer 4 および 5
- AOL 5 および 6

## WebSphere Commerce で使用されるポート番号

以下に、WebSphere Commerce またはそのコンポーネント製品によって使用されるデフォルトのポート番号のリストを示します。WebSphere Commerce 以外のアプリケーションでは、これらのポートを使用しないようにしてください。システムにファイアウォールが構成されている場合には、これらのポートがアクセス可能になっていることを確認してください。

ポート番号	使用するソフトウェア
<b>80</b>	IBM HTTP Server
<b>443</b>	IBM HTTP Server
<b>900</b>	WebSphere Application Server ブートストラップ
<b>1099</b>	WebSphere Commerce 構成マネージャー
<b>2222</b>	ユーザー wasuser としてアクセスされる WebSphere Application Server。
<b>8000</b>	WebSphere Commerce Tools
<b>8080</b>	WebSphere Test Environment for VisualAge <sup>®</sup> for Java <sup>™</sup>
<b>8611</b>	Payment Manager
<b>8620</b>	Payment Manager Cassette for SET <sup>™</sup>
<b>9000</b>	WebSphere Application Server Location Server
<b>16999</b>	WebSphere Commerce Cache Daemon (デフォルト)
<b>50000</b>	DB2 <sup>®</sup> connect (デフォルト)
<b>50001</b>	DB2 割り込み (デフォルト)

## ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表

WebSphere Commerce 環境での管理には、さまざまなユーザー ID が必要です。それらのユーザー ID と、それに必要な権限のリストを、次の表に示します。各 WebSphere Commerce ユーザー ID ごとにデフォルトのパスワードを示しています。

ユーザー ID	デフォルト値	備考
Windows ユーザー ID	適用されない	<p>Windows ユーザー ID に管理者権限が必要です。 DB2 では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっていることが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>長さは 8 文字以下です。</li> </ul> <p>使用できる文字は A～Z、a～z、0～9、@、#、\$、および _ だけです。</p> <p>先頭文字として下線 ( _ ) は使用できません。</p> <p>USERS、ADMINS、GUESTS、PUBLIC、LOCAL は、大文字小文字の別に関係なく、ユーザー ID として使用できません。</p> <p>IBM、SQL、SYS は、大文字小文字の別に関係なく、ユーザー ID の先頭の 3 文字として使用できません。</p> <p>Windows サービス名、またはマシン・ホスト名のいずれかと同じユーザー ID は、使用できません。</p> <p>ユーザー ID はローカル・マシン上で定義されていなければならない、ローカル管理者のグループに属していなければなりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ユーザー ID には、拡張ユーザー権限として <i>Act as part of the operating system</i> が付与されていなければなりません。</li> </ul>
構成マネージャーのユーザー ID	構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID およびパスワードは、webadmin および webibm です。	<p>構成マネージャー・ツールのグラフィカル・インターフェースを使用すれば、WebSphere Commerce の構成方法を変更できます。構成マネージャーには、WebSphere Commerce マシンから、または WebSphere Commerce と同じネットワーク上の任意のマシンからアクセスできます。</p>
IBM HTTP Server のユーザー ID	適用されない	<p>Web サーバーのホーム・ページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。</p> <p><code>http://host_name</code></p>

<p>WebSphere Commerce インスタンス管理者</p>	<p>インスタンス管理者のデフォルト・ユーザー ID は wcsadmin、デフォルト・パスワードは wcsadmin です。  <b>注:</b> wcsadmin ユーザー ID は、決して削除しないでください。また、それには常にインスタンス管理者の権限が付与されていなければなりません。</p>	<p>インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードは、以下の WebSphere Commerce ツールに適用されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• WebSphere Commerce Accelerator。 Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce Accelerator にアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。  https://host_name:8000/accelerator</li> <li>• WebSphere Commerce 管理コンソール。 Windows オペレーティング・システムが実行されているリモート・マシンから WebSphere Commerce 管理コンソールにアクセスするには、Internet Explorer Web ブラウザーをオープンしてから、以下の Web アドレスを入力します。  https://host_name:8000/adminconsole</li> <li>• ストア・サービス。ストア・サービスのページには、Web ブラウザーをオープンし、以下の Web アドレスを入力することによってアクセスできます。  https://host_name:8000/storeservices</li> </ul> <p>WebSphere Commerce では、ユーザー ID とパスワードが次の規則になっていることが必要です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パスワードの長さは最低 8 文字。</li> <li>• パスワードには、少なくとも 1 つの数字が含まれなければなりません。</li> <li>• パスワードには、同じ文字が 4 回を超えて出現してはなりません。</li> <li>• パスワードには、同じ文字を 3 回を超えて繰り返すことはできません。</li> </ul>
-------------------------------------	--	---

Payment Manager 管理者	Payment Manager をインストールする時点で、WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更しないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能が動作しなくなります。	Payment Manager 管理者役割が割り当てられているユーザー ID では、Payment Manager の制御と管理が可能です。
---------------------	--	--

## インストール前の要件

このセクションでは、WebSphere Commerce をインストールする前に実行しておくことの必要なステップについて説明します。

### 重要

正常にインストールするためには、ここで説明するインストールの前提となるすべてのステップを実行しなければなりません。

## 知識に関する要件

WebSphere Commerce をインストールおよび構成するには、以下のことに関する知識が必要です。

- パーソナル・コンピューターと使用するオペレーティング・システム
- インターネット
- Web サーバーの運用と保守

- IBM DB2 ユニバーサル・データベース (DB2 Universal Database™)
- WebSphere Application Server 管理コンソール
- オペレーティング・システムの基本的なコマンド

ストアを作成しカスタマイズするには、以下のことに関する知識が必要です。

- WebSphere Application Server
- IBM DB2 ユニバーサル・データベース
- HTML および XML
- 構造化照会言語 (SQL)
- Java のプログラミング

ストアまたはモールのカスタマイズについては、*WebSphere Commerce プログラマーズ・ガイド* および *WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

WebSphere Commerce と WebSphere Commerce Studio には、いずれもこれらのマニュアルが付属しています。

## 前提条件となるハードウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のハードウェア要件を満たしていることを確認してください。

専用の Pentium® III 733 MHz (実稼働環境ではそれ以上を推奨) の IBM 互換パーソナル・コンピュータで、以下のハードウェアを備えたもの。

- 1 つのプロセッサごとに 768 MB 以上のランダム・アクセス・メモリー (RAM)。WebSphere Commerce インスタンスが 1 つ追加されるごとに、インスタンス当たりの RAM を 512 MB 追加する必要があります。
- インストール先ドライブ上に 2 GB 以上の空きディスク・スペース。また、C: ドライブには、それに加えて 300 MB が必要です。使用しているマシンで FAT 区画が使用されていて、その区画が 1.024 GB を超える場合は、その 2 倍の空きディスク・スペースが必要になります。インストールでは、十分な空きディスク・スペースがあるかどうかチェックされ、スペースが不足している場合には警告が出されます。
- RAM の 2 倍のページング・スペース (たとえば RAM が 512 MB なら 1024 MB のページング・スペース)。
  - Windows NT では、これは Windows の「システムのプロパティ」の「仮想メモリー」パネルで調整できます。
  - Windows 2000 では、これは Windows の「システムのプロパティ」の「パフォーマンス オプション」パネルで調整できます。
- CD-ROM ドライブ。
- 256 色以上のグラフィックス表示可能モニター。
- マウスまたはその他のポインティング・デバイス。

- TCP/IP プロトコルをサポートするローカル・エリア・ネットワーク (LAN) アダプター、または Microsoft ループバック・アダプター。

## 前提条件となるソフトウェア

WebSphere Commerce をインストールする前に、以下の最低限のソフトウェア要件を満たしていることを確認してください。

- 以下にいずれかのオペレーティング・システムがインストールされていること。
  - Windows NT Server バージョン 4.0 (WebSphere Commerce に Service Pack 6a をインストール済みのこと)。Service Pack 6a がインストールされているかどうかを調べるには、DOS プロンプトのコマンド行で `winver` と入力してください。Service Pack が正しくインストールされていれば、システム情報の中で *Service Pack 6a* について言及されています。Service Pack は、以下の Web アドレスから入手できます。  
<http://www.microsoft.com>
  - Windows 2000 Server または Advanced Server Edition (Service Pack 2 インストール済みのもの)。最新の Service Pack は、以下の Web アドレスから入手できます。  
<http://www.microsoft.com>

## その他の要件

WebSphere Commerce をインストールする前に、さらに、以下のことを実行することが必要です。

- 実行されているアプリケーションをすべて停止します。インストール・プロセス中には、マシンを再始動することが必要になります。その時点でアプリケーションが実行されていると、データが失われる可能性があります。
- マシン上で Lotus® Notes™ などのサーバーが実行されている場合には、そのサーバーを停止します。マシン上に現在ポート 80、ポート 443、またはポート 8000 を使用している Web サーバーがあるなら、それを無効にしてください。
- WebSphere Commerce では IP アドレスとホスト名の両方が使用されるため、システムの IP アドレスがホスト名に対応付けされていなければなりません。IP アドレスを判別するには、コマンド・ウィンドウを開いて次のように入力します。

```
ping host_name
```

正しい IP アドレスからの応答があればよいということになります。

- Web サーバーのホスト名に下線 ( \_ ) が含まれないようにしてください。IBM HTTP Server は、ホスト名に下線が含まれるマシンをサポートしていません。
- Windows 2000 を使用している場合、オペレーティング・システムのデフォルト・インストールで、Microsoft IIS Web サーバーがシステムにインストールされます。IBM HTTP Server をインストールする前に、このサーバーをアンインストールする必要があります。

---

## 第 2 章 WebSphere Commerce のインストール

---

### WebSphere Commerce のインストール

この章では、WebSphere Commerce のインストール方法について説明します。

#### 章チェックリスト

- システムが 6 ページの『インストール前の要件』で説明されているすべての条件を満たしており、かつクイック・スタート に示されているインストール・シナリオに当てはまるインストール作業を実施しようとしていることを確認してください。
- WebSphere Commerce のどのコンポーネントも、システムにまだインストールされていないことを確認してください。
- アンチウイルス・ソフトウェアを実行している場合には、WebSphere Commerce をインストールする前に、「サービス」ウィンドウにおいてスタートアップの種類を「**手動**」に変更した上で、マシンを再始動する必要があります。WebSphere Commerce のインストール終了後、アンチウイルス・サービスのスタートアップの種類を「**自動**」に戻してください。

**注:** この章では、製品パッケージに含まれる CD を使用して WebSphere Commerce をインストールする方法について説明します。ネットワーク・ドライブからインストールする目的で CD をネットワークにコピーする場合には、CD 上でのフォルダー、バス、およびディレクトリーの名前を変更しないでください。インストール・プロセス中に、コンポーネントまたは CD が必要というプロンプトが出た場合は、コンポーネントの場所を指定してください。

#### インストール手順

WebSphere Commerce をインストールするには、以下のようにします。

1. 管理者権限の付与された Windows ユーザー ID にログオンします。Windows ユーザー ID は、3 ページの『ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表』の Windows ユーザー ID の部分に示されている基準を満たしている必要があります。
2. WebSphere Commerce Disk 1 CD を CD-ROM ドライブに挿入します。
3. WebSphere Commerce Disk 1 CD のルート・ディレクトリーに移動し、setup.exe を実行します。
4. 「Choose Setup Language (セットアップ言語の選択)」ウィンドウが表示されます。リストから言語を選択し、「**OK**」をクリックします。

5. システムがインストール前提要件を満たしていないなら、どんな要件が満たされていないかを示すダイアログが表示されます。「キャンセル」をクリックした後、「Exit Setup (セットアップ終了)」をクリックして、インストール・プログラムを終了してください。前出の前提要件を満たすための適切な手順を実行してから、インストールを再開してください。
6. 「ウェルカム」ウィンドウが表示されます。「次へ」をクリックして、次へ進んでください。
7. 「License Agreement (ご使用条件)」画面が表示されます。この画面が表示される前に、DOS ウィンドウが少しの時間表示されることがありますのでご注意ください。ご使用条件をよく読み、同意するかどうかを決定してください。ご使用条件に同意すると、インストール・プログラムが継続されます。同意しない場合、インストール・プログラムは終了します。
8. ユーザー ID とパスワードを入力するウィンドウで、現在ログオンしている Windows ユーザー ID とパスワードを入力します。パスワードを確認してから、「次へ」をクリックして先へ進みます。
9. 「セットアップ・タイプ」ウィンドウが表示されます。「標準」を選択し、「次へ」を選択して次へ進んでください。
10. 「宛先の選択」ウィンドウが表示されます。インストールする製品のうちのいくつかについては、このウィンドウでデフォルトのインストール・パスを指定変更できます。インストール・パスを選択し、「次へ」をクリックして続けます。



---

デフォルトでは、十分なフリー・スペースがあるドライブのうち最初のもので使用されます。

---

11. 「プログラム」フォルダーの中で WebSphere Commerce の中に作成するサブフォルダーの名前として、デフォルトのサブフォルダー名をそのまま受け入れるか、またはサブフォルダー名を入力します。「次へ」をクリックして、次へ進みます。
12. インストール・ログ・ファイルの保存場所を指定するためのウィンドウが表示されます。デフォルト値をそのまま受け入れるか、または新しいディレクトリーを入力してから、「次へ」をクリックします。
13. 「Summary (要約)」ウィンドウに、選択したオプションの要約が表示されます。このウィンドウには、インストールされるコンポーネントと、それらのインストール先となるドライブが表示されます。「次へ」をクリックして、次へ進んでください。
14. 以下の実行を指示するプロンプトが出されます。
  - DB2 Enterprise Server と DB2 アプリケーション開発クライアントをインストールするため、DB2 ユニバーサル・データベース CD を挿入します。「OK」をクリックして、次へ進んでください。



- IBM HTTP Server および WebSphere Application Server をインストールするために、「WebSphere Application Server, Advanced Edition」の CD を挿入します。「OK」をクリックして、次へ進んでください。
  - WebSphere Commerce Disk 2 CD を挿入し、「OK」をクリックして次へ進みます。インストール完了までに数分かかることがあります。「OK」をクリックして、次へ進んでください。WebSphere Commerce 5.4、WebSphere Application Server FixPak 2、WebSphere Application Server e-fix、および DB2 ユニバーサル・データベースのパッチがインストールされます。
15. WebSphere Commerce がインストールされたなら、再始動するよう促されます。「終了」をクリックします。
  16. システムが再始動した後、必ず WebSphere Application Server データベースの作成が完了するのを待ってください。システムの活動が低下したら、インストール開始時に使用したのと同じ Windows ユーザー ID にログオンします。
  17. 『インストールの検証とトラブルシューティング』で説明されている手順を実行することにより、WebSphere Commerce 5.4 が正しくインストールされていることを確認してください。

## インストールの検証とトラブルシューティング

WebSphere Commerce が正しくインストールされたことを確認するため、システムに以下のディレクトリーが作成されていることを確認してください。

- *drive*:%WebSphere%AppServer
- *drive*:%WebSphere%sqllib
- *drive*:%WebSphere%HTTPServer
- *drive*:%WebSphere%CommerceServer

以下のログ・ファイルにエラー・メッセージが含まれていないことも確認してください。

- WebSphere Application Server が正しくインストールされたことを確認するため、*drive*:%WebSphere%AppServer%logs%wssetup.log を調べてください。不適切な JDBC レベルがマシンにインストールされているというエラーが記録されます。このエラーは、無視しても問題ありません。ログの末尾に Install Complete というステートメントがあれば、インストールは正常に実行されました。
- WebSphere Application Server データベースが正しく作成されたことを確認するために、*drive*:%WebSphere%AppServer%logs%wasdb2.log を調べます。すべての DB2 コマンドが正常に完了したことを確認してください。
- WebSphere Application Server FixPak が正常に適用されたことを確認するために、*drive*:%WebSphere%AppServer%logs%was40\_ae\_ptf\_2.log をチェックします。
- WebSphere Application Server efixes が正常に適用されたことを確認するために、*drive*:%WebSphere%AppServer%efix の該当する efix ディレクトリーを選んでログ・ファイルをチェックしてください。

- インストール中に何か問題が発生した場合には、 `drive:¥WCInstall.log` (インストール中に指定した場所) の中にそのことが示されます。

Web サーバーのインストールを検証するため、ブラウザで以下の Web ページにアクセスしてください。

- `http://host_name`

`host_name` は、実際の WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名です。http アドレスがうまく動作しない場合には、Web サーバーが始動しているかどうかを確認してください。

**注:** WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成をチェックすることができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー・チェックを実行します。IC Checker については、46 ページの『ダウンロード可能なツール』を参照してください。

## WebSphere Application Server の始動

インスタンスを作成するには、その前にまず WebSphere Application Server を始動する必要があります。WebSphere Application Server を開始するには、次のようにします。

1. 管理者権限の付与された Windows ユーザー ID でログインし、「サービス」パネルを開きます。
  - Windows NT の「サービス」パネルを開くには、次のようにします。
    - a. 「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」を選択します。
    - b. 「コントロール パネル」ウィンドウで、「サービス」アイコンをダブルクリックします。
  - Windows 2000 で「サービス」パネルを開くには、「スタート」→「設定」→「コントロール パネル」→「管理ツール」→「サービス」を選択します。
2. データベース・サービスが開始済みであることを確認してください。
3. Web サーバーのサービスが開始済みであることを確認してください。まだ開始していないなら、それらのサービスを選択し、「開始」をクリックしてください。IBM HTTP Server と IBM HTTP Administration のサービスが、いずれも開始済みでなければなりません。
4. 「サービス」リストから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
5. 「開始」をクリックします。

WebSphere Application Server が開始されているなら、それが正常に動作していることを確認してください。WebSphere Application Server が正常に動作していることを確認するには、次のようにします。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。

2. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
3. 「**Nodes (ノード)**」を拡張表示します。
4. ホスト名を展開します。
5. 「**Application Servers (アプリケーション・サーバー)**」を拡張表示します。
6. 「**Default Server (デフォルト・サーバー)**」を選択して、右クリックします。「**開始**」を選択します。
7. Default Server.start というメッセージが表示されたら、Web ブラウザーをオープンして以下の URL を入力します。

`http://host_name/servlet/snoop`

テスト用サーブレットがエラーなく実行されなければなりません。

「Default Server (デフォルト・サーバー)」は、テストのためだけであり、いつでも除去できます。「Default Server (デフォルト・サーバー)」は、WebSphere Commerce に必要なものではないので、実動サーバーでは実行しないようにしてください。

## IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 のインストール

この章では、ローカル WebSphere Commerce マシン上に Payment Manager をインストールして構成する方法について説明します。この章に示されている手順を完了するには、IBM Payment Manager 3.1.2 の CD が必要です。

WebSphere Commerce に付属のサンプル・ストアは、IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 を使用するように構成されています。Payment Manager がインストールされていない場合、WebSphere Commerce サンプル・ストア、またはサンプル・ストアを基にしたストアを使用してオーダーを完了することはできません。

詳しくは、IBM Payment Manager 3.1.2 の CD に含まれている *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms インストール・ガイド バージョン 3.1*、および *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms 管理者ガイド バージョン 3.1* をご覧ください。

### インストールの前提条件

Payment Manager は WebSphere Commerce マシンにインストールするので、Payment Manager のインストール前提条件のほとんどはすでに満たされています。Payment Manager をインストールする前に、以下の手順を実行してください。

1. インストール作業中にそのデータベースが実行中であるようにしてください。
2. DB2 コマンド行プロセッサで以下のコマンドを発行することによって、Payment Manager 用データベース (以下の例では `payman`) を作成します。

```
create db payman
update db cfg for payman using APPLHEAPSZ 256
```

3. インストール時に WebSphere Application Server 管理サーバーが実行中であるようにしてください。さらに、WebSphere Application Server において、WebSphere Payment Manager というアプリケーション・サーバーが別の目的のために構成されていないことを確認してください。もしすでに構成済みなら、その名前を変更するか、または削除してください。削除するには、以下のようになります。
  - a. WebSphere 管理者コンソールを開始します。
  - b. Payment Manager Application Server をマウスの右ボタンでクリックし、「除去」を選択します。

## Payment Manager のインストール

Payment Manager をインストールするには、以下のようになります。

1. 管理者権限の付与された Windows ユーザー ID にログオンします。Windows ユーザー ID は、3 ページの『ユーザー ID、パスワード、および Web アドレスの早見表』の「Windows ユーザー ID」の部分に示されている基準を満たしていることが必要です。
2. ディスプレイの解像度が 800 × 600 ピクセル以上であることを確認してください。これは、Payment Manager のインストール・プログラムが最適な状態で表示されるようにするためです。
3. IBM Payment Manager 3.1.2 の CD を挿入します。
4. コマンド・プロンプトから、CD のルート・ディレクトリーに移動して、Install と入力します。
5. 「Payment Manager Install (Payment Manager のインストール)」のページで、「次へ」をクリックします。
6. デフォルトのインストール先ディレクトリーをそのまま受け入れるか、または別のディレクトリーを入力します。そして、「次へ」をクリックしてください。
7. Payment Manager バージョン 2.2 またはバージョン 2.1 からマイグレーションしている場合、インストール・プログラムが Test Cassette (Cassette) を検出したなら、それが削除されて、削除したことが通知されます。「次へ」をクリックしてください。
8. WebSphere Application Server がどの IBM SDK for Java を使用しているかをインストール・プログラムで判断できない場合には、IBM SDK for Java のディレクトリーの位置を入力するよう促されます。表示されている位置が正しければ、「次へ」をクリックしてください。正しくないなら、正しい位置を入力してから「次へ」をクリックしてください。
9. Payment Manager で使用するデータベースとして、「IBM ユニバーサル・データベース」を選択し、「次へ」をクリックしてください。
10. JDBC のドライバー情報が検出されたなら、「次へ」をクリックしてください。JDBC™ ドライバー情報が検出されなかった場合には、次の情報を使用してください。
  - JDBC ドライバー・クラスの名前: COM.ibm.db2.jdbc.app.DB2Driver

- JDBC クラスの位置: <DB2\_install\_directory>%java%db2java.zip
- JDBC ドライバーの共用ライブラリーのパス: <DB2\_install\_directory>%bin%

**注:** 正しくないデータベース情報を入力し、そのためにデータベース・エラーが発生した場合、そこで「戻る」ボタンを使うと、さらにデータベース・エラー・ポップアップ・ウィンドウが表示されることとなります。その場合には、「キャンセル」をクリックしてからインストールをやり直すことができます。または、「戻る」を使ってページをいくつか戻ってから、「次へ」ボタンを使って、データベース入力ページまで進むこともできます（途中のページで正しい値を入力します）。そのページが再度表示されたなら、正しい情報を入力できます。

11. 「Payment Manager Database Access Information (Payment Manager データベース・アクセス情報)」のページで、以下の値を入力します。

- データベース所有者のユーザー ID
- 管理者のユーザー ID
- 管理者のパスワード
- Payment Manager のデータベース名 (たとえば、payman)
- DB2 インスタンス名 (たとえば DB2)

「次へ」をクリックして、次へ進んでください。

12. 「Payment Manager WebSphere Configuration Information (Payment Manager WebSphere 構成情報)」ページで、デフォルト・ノード名をそのまま受け入れるか (ただしマシンに関して正しいものである場合)、あるいは必要に応じてノード名を入力します。ノード名は大文字小文字を区別することに注意してください。ノード名は、WebSphere Application Server 管理コンソールに表示される使用中のマシンのノード名と同じでなければなりません。「次へ」をクリックして続行します。

13. 「Installation Summary (インストールの要約)」のページで、選択されているパラメーターを確認します。「次へ」をクリックして、インストールを続けます。

**注:** インストール中に、進行状況表示バーが停止したように見えることがあります。それでもインストールは継続していますので、終了しないでください。システム・リソースの状態に応じて、進行状況表示バーが再び動くようになります。

14. インストールが完了したなら、Web サーバーと Payment Manager を始動する前にシステムを再始動してください。

## インストール後の手順

オペレーティング・システムに IBM Payment Manager 3.1.2 をインストールしたなら、必要に応じて以下のことを実行します。

- Payment Manager で使う予定の決済カセットをインストールします。決済カセットをインストールする前に、使用している環境に Payment Manager が正常にインストールされていることを確認してください。

使用している環境に Payment Manager が正常にインストールされていることを確認するには、以下のようにします。

1. Web サーバーを開始します。
2. WebSphere Application Server を開始します。
3. WebSphere Application Server 管理コンソールから、 WebSphere Payment Manager Application Server を開始します。

決済カセットをインストールする前に、 WebSphere Application Server 管理者コンソールで IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 Application Server を停止する必要があります。そのようにするならば、決済カセットのインストール時に Payment Manager の構成ファイルが更新されます。複数のカセットをインストールする場合は、各カセットのインストール前に、毎回 IBM WebSphere Payment Manager 3.1.2 Application Server を停止してください。

Payment Manager をインストールすると、 OfflineCard Cassette と CustomOffline Cassette は自動的にインストールされます。それら OfflineCard Cassette と CustomOffline Cassette は、テスト用に使用できます。 Payment Manager と共にインストールされる CustomOffline Cassette または OfflineCard Cassette の使用については、 *Payment Manager 管理者ガイド* をご覧ください。

その他の決済カセットのインストールについては、インストールするカセット用の補足資料をご覧ください。 IBM カセットについては、以下の資料をご覧ください。

- *Payment Manager Cassette for SET Supplement* (SET Cassette CD に含まれています)
- *Payment Manager Cassette for CyberCash Supplement* (CyberCash Cassette CD に含まれています)
- *Payment Manager Cassette for BankServACH Supplement* (BankServACH Cassette CD に含まれています)
- *Payment Manager Cassette for VisaNet Supplement* (VisaNet Cassette CD に含まれています)

### **Payment Manager 管理者の役割**

Payment Manager をインストールする時点で、 WebSphere Commerce 管理者 ID wcsadmin に Payment Manager 管理者役割が自動的に割り当てられます。 Payment Manager 管理者役割が割り当てられている ID では、 Payment Manager の制御と管理が可能です。

#### **注:**

1. ログオン・ユーザー ID wcsadmin は削除したり名前を変更したりしないでください。また、wcsadmin に事前に割り当てられている Payment Manager の役割は変更し

ないようにしてください。もし変更すると、Payment Manager の整合性に関連した WebSphere Commerce の機能の一部が動作しなくなります。

2. WebSphere Commerce の管理者に Payment Manager の役割を割り当てた場合、後でその管理者のログオン・ユーザー ID を削除したり名前を変更したりするときには、ID を削除または名前変更する前に、まずその管理者に割り当てた Payment Manager の役割を削除してください。

### 重要

wcsadmin ユーザー ID に加えて、Payment Manager は Payment Manager 管理者役割を以下の 2 つの管理 ID に事前に割り当てます。

- admin
- ncdadmin

あるユーザーが誤ってこの Payment Manager 管理者役割を取得することがないようにするには、以下のことを実行できます。

- WebSphere Commerce 管理コンソールを使用して、WebSphere Commerce の中で上記の管理者 ID を作成します。
- Payment Manager のユーザー・インターフェースで、「ユーザー」を選択します。
- この ID から Payment Manager 管理者の役割を削除します。





---

## 第 3 章 WebSphere Commerce の構成作業

---

### 構成マネージャーによるインスタンスの作成

この章では、構成マネージャーにより基本的なインスタンスを作成する方法について説明します。1 ページの『WebSphere Commerce へようこそ』と 9 ページの『WebSphere Commerce のインストール』で説明されている手順がまだ完了していない場合、インスタンスを作成することはできません。

**注:** 1 つの WebSphere Commerce Server は、コマース・データベース、EJB コンテナ、および 1 つ以上のストアへのクライアント要求を処理するいくつかのサーブレット・エンジンで構成されています。WebSphere Commerce 構成マネージャーの中で、各 WebSphere Commerce インスタンスは、インスタンス・ツリーの中の別個のルート・カテゴリになっています。WebSphere Application Server のトポロジー・ビューでは、WebSphere Commerce インスタンスは、別個の WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーとしてノード・エントリーの下に表示されます。

拡張構成について、またこの章では説明されていないフィールドについては、*WebSphere Commerce インストール・ガイド* をご覧ください。

### 章チェックリスト

- DB2 サーバーが実行中であることを確認してください。
- IBM HTTP Server が実行中であることを確認してください。
- **IBM WC Configuration Manager Server** のサービスが開始されていることを確認します。そのためには、Windows の「サービス」パネルをオープンし、**IBM WC Configuration Manager Server** を選択します。サービスが停止している場合は、そのサービスを右クリックして「開始」を選択してください。

#### 重要

**IBM WC Configuration Manager Server** サービスが実行されていると、セキュリティ上の問題が発生することがあります。構成マネージャーを使用しないときは、**WC Configuration Manager Server** サービスを停止してください。

セキュリティ上の問題が発生しないようにするためには、さらに **IBM WC Configuration Manager Server** のスタートアップの種類が「自動」ではなく「手動」に設定されていることを確認してください。

- WebSphere Application Server を開始します。サーバーを開始するには、「サービス」ウィンドウを開き、「IBM WS AdminServer 4.0」を選択してから、「開始」をクリックします。

## 構成マネージャーの起動

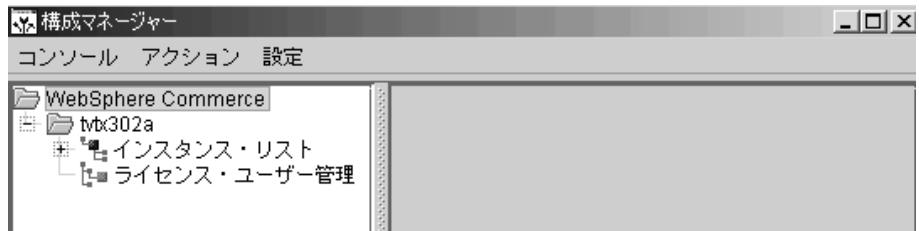
構成マネージャーにアクセスするには、以下のようにします。

1. 「スタート」メニューから、「プログラム」 → 「IBM WebSphere Commerce」 → 「構成」を選択します。
2. 構成マネージャーのデフォルト・ユーザー ID (webadmin)、およびデフォルト・パスワード (webibm) を入力します。
3. 初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

## インスタンス作成ウィザード

インスタンスを作成するには、WebSphere Commerce 構成マネージャーで以下のようにします。

1. ホスト名を展開します。
2. 「インスタンス・リスト」をマウスの右ボタンでクリックします。
3. 表示されるポップアップ・メニューで、「インスタンスの作成」を選択します。



4. インスタンス作成ウィザードが表示されます。以下の各パネルのフィールドに入力してください。インスタンスを作成する場合、アスタリスク (\*\*) を付けたフィールドには必ず入力しなければなりません。

## 「インスタンス」

インスタンス名:	<input type="text" value="demo"/>
インスタンスのルート・パス:	<input type="text" value="E:\WebSphere\CommerceServer\instan"/>
マーチャント・キー:	<input type="text"/>
	<input type="checkbox"/> PDI 暗号化
	<input type="checkbox"/> PVC ヘッダー使用可能:
URL マッピング・ファイル:	<input type="text" value="E:\WebSphere\CommerceServer\xmlm"/>

### 「インスタンス名」

インスタンスのために使用する名前。デフォルトの名前は demo です。

### 「インスタンスのルート・パス」

WebSphere Commerce インスタンスに関連するすべてのファイルを保存するパスを入力します。デフォルトのパスは、  
`drive:\%WebSphere%CommerceServer%instances%instance_name` です。

### \*\* 「マーチャント・キー」 \*\*

これは、構成マネージャーが暗号鍵として使用する 16 桁の 16 進数です。マーチャント・キーには、1 個以上の英字 (a ~ f)、および 1 個以上の数字 (0 ~ 9) が含まれていなければならない、英字は小文字でなければなりません。また、1 行の中に同じ文字を 5 回以上入力することはできません。ストア作成後に、この鍵を変更してはなりません。特に実動サーバーの場合、サイト保護に十分な鍵を入力するようにしてください。

### 「PDI 暗号化」

このチェック・ボックスは、ORDPAYINFO と ORDPAYMTHD のテーブルに指定された情報を暗号化することを指定するのに使います。

### 「PVC ヘッダー使用可能」

将来のリリースのために予約済み。

### 「URL マッピング・ファイル」

URL マッピングのために使用するファイルのパスを入力するか、またはデフォルト・ファイル  
`drive:\%WebSphere%CommerceServer%xml%mapping%urlmapper.xml` をそのまま使用してください。

## データベース

データベース管理者名:	<input type="text" value="db_administrator_name"/>
データベース管理者パスワード:	<input type="password" value="*****"/>
データベース名:	<input type="text" value="mall"/>
データベース・タイプ:	<input type="text" value="DB2"/>
データベース・ユーザー名:	<input type="text" value="db_user_name"/>
データベース・ユーザー・パスワード:	<input type="password" value="*****"/>
	<input checked="" type="checkbox"/> データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行
	<input type="checkbox"/> ステージング・サーバーの使用:
	<input checked="" type="checkbox"/> アクティブ・データベースとして設定:
	<input type="checkbox"/> リモート・データベースの使用:

### \*\*「データベース管理者名」\*\*

データベース管理者のユーザー名を入力します。これは、インストールの実行に使用されるユーザー名です (代替的なデータベース管理者名を定義した場合を除く)。

### \*\*「データベース管理者パスワード」\*\*

データベース管理者のユーザー ID のパスワードを入力します。

### 「データベース名」

データベースに割り当てる名前として、デフォルトを受け入れるか、または入力します。この名前は、長さが 8 文字以下でなければなりません。インスタンス作成ウィザードを使ってインスタンスを作成する場合、WebSphere Application Server リポジトリのために過去に作成した WebSphere Application Server データベースは指定しないでください。むしろ、ウィザードの「データベース」ページの「データベース名」フィールドには、WebSphere Commerce ストアのための固有のデータベース名を指定してください (たとえば MALL)。

### 「データベース・タイプ」

DB2 ユニバーサル・データベースを選択します。

### \*\* 「データベース・ユーザー名」 \*\*

データベース管理者以外にデータベースの DB2 ユーザーを作成した場合は、そのユーザー ID をこのフィールドに入力することができます。管理者以外に DB2 ユーザーがない場合は、管理者のユーザー名を入力してください。

### \*\* 「データベース・ユーザー・パスワード」 \*\*

これは、上記のデータベース・ユーザー名に関連するパスワードです。管理者以外に DB2 ユーザーがない場合は、管理者のパスワードを入力してください。

### 「データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行」

DB2 データベース最適化を実行するため、「データベース・パフォーマンス・ウィザードの実行」チェック・ボックスを選択します。

### 「ステージング・サーバーの使用」

「ステージング・サーバーの使用」を選択すると、構成マネージャーは、このデータベースをステージング・サーバーで使用するものとして定義します。ステージング・サーバーについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

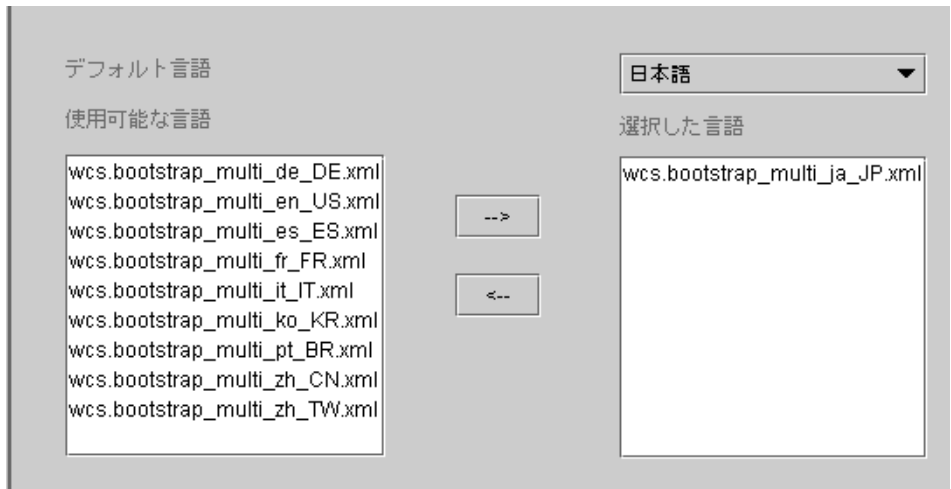
### 「アクティブ・データベースとして設定」

インスタンスでこのデータベースを使用する場合、このオプションを選択します。

### 「リモート・データベースの使用」

このチェック・ボックスは、オフにしてください。リモート・データベース・サーバーを使用したい場合は、*WebSphere Commerce* インストール・ガイドの説明に従う必要があります。

## 「言語」



構成マネージャの「言語」パネルは、必要なすべての言語をサポートするようにデータベースを構成する場合に使います。少なくとも 1 つの言語を選択する必要があります。データベースに言語サポートを追加するには、以下のようにします。

1. 「使用可能な言語」ウィンドウから、該当する言語の XML ファイルを選択します。XML ファイルは、`wcs.bootstrap_multi_xx_XX.xml` という形式です (`xx_XX` は選択する言語の 4 文字のロケール・コード)。
2. 「選択した言語」ウィンドウを指す矢印をクリックします。選択した言語が「選択した言語」ウィンドウに表示されます。
3. ステップ 1 と 2 を、サポートの必要な言語ごとに実行します。

## 「Web サーバー」

リモート Web サーバーの使用

ホスト名:

Web サーバー・タイプ:

1 次文書ルート:

サーバー・ポート:

認証モード:  基本  
 X.509

### 「リモート Web サーバーの使用」

このチェック・ボックスはオフにしてください。リモート Web サーバーを使用したい場合は、*WebSphere Commerce インストール・ガイド* の説明に従う必要があります。

### 「ホスト名」

デフォルトをそのまま受け入れるか、または WebSphere Commerce マシンの完全修飾ホスト名を入力します (完全修飾名は `host_name.domain.com` という形式です)。デフォルトは、Windows システムのホスト名です。ホスト名フィールドには、`www` 接頭部を入力しないでください。デフォルト・ホスト名を受け入れる場合は、そのデフォルト・ホスト名が完全修飾名であることを確認してください。

### 「Web サーバー・タイプ」

IBM HTTP Server を選択します。

### 「1 次文書ルート」

Web サーバーの文書ルートのパスとして、デフォルトをそのまま受け入れるか、または入力します。

### 「サーバー・ポート」

WebSphere Commerce Server で使用するポート番号を入力します。デフォルト値は 80 です。

### 「認証モード」

この WebSphere Commerce インスタンスで使用する認証モードを選択します。選択肢は以下のとおりです。

### 「基本」

認証は、カスタム証明書を使って実行されます。

### 「X.509」

認証は、X.509 証明書規格を使って実行されます。

## WebSphere

データ・ソース名:	WebSphere Commerce DB2 DataSource
ポート番号:	900
JDBC ドライバーの場所:	E:\WebSphere\SQLLIB\java\db2java.zip
<input checked="" type="checkbox"/> ストア Web アプリケーション:	
<input checked="" type="checkbox"/> ツール Web アプリケーション:	
ツール・ポート番号	8000
<input checked="" type="checkbox"/> WebSphere Catalog Manager	

### 「データ・ソース名」

WebSphere Commerce が使用するデータベースにアクセスするために使う接続プールをセットアップするために使います。データ・ソース名を入力するか、またはデフォルトをそのまま受け入れてください。

### 「ポート番号」

WebSphere Application Server が listen するポート・アドレスを入力します。WebSphere Application Server 開始時に別のポートを指定したのでなければ、デフォルトを受け入れることができます。

### 「JDBC ドライバーの場所」

システム上の db2java.zip ファイルの位置を入力するか、またはデフォルト値をそのまま受け入れます。

### 「ストア Web アプリケーション」

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのストア Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。



### 「ツール Web アプリケーション」

WebSphere Application Server において WebSphere Commerce Server の下にデフォルトのツール Web アプリケーションを構成する場合、これを選択します。インスタンスが作成された後、このチェック・ボックスは使用不可になります。

### 「ツール・ポート番号」

WebSphere Commerce 管理ツールへのアクセスに使用するポート番号。デフォルト・ポート番号は 8000 です。

### 「WebSphere Catalog Manager」

このチェック・ボックスを選択すると、WebSphere Catalog Manager WebEditor がインストールされます。これは

`https://host_name:8000/wcm/webeditor` でアクセスできます。デフォルトでは、これがインストールされます。

## Payment Manager

ホスト名:	<input type="text" value="hostname.domain.com"/>
プロファイル・パス:	<input type="text" value="E:\WebSphere\CommerceServer\instances\demo"/>
	<input type="checkbox"/> 非 SSL Payment Manager クライアントの使用
Web サーバー・ポート:	<input type="text" value="443"/>
	<input type="checkbox"/> Socks サーバーの使用
Socks ホスト名:	<input type="text"/>
Socks ポート番号:	<input type="text"/>

### 「ホスト名」

Payment Manager マシンの完全修飾ホスト名を入力します。デフォルトは、WebSphere Commerce のホスト名です。

### 「プロファイル・パス」

WebSphere Commerce Payment Manager Cashier の標準のプロファイルの保存先ディレクトリーの絶対パス名。デフォルト値は `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml¥payment` です。

### 「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」

WebSphere Commerce が Payment Manager サーバーと通信するために非 SSL Payment Manager クライアントを使用する場合は、このチェック・ボックスをオンにします。それにより、WebSphere Commerce Server は、SSL を使わずに Payment Manager と通信できるようになります。

### 「Web サーバー・ポート」

Payment Manager が使用する Web サーバーの TCP ポートを入力します。

「非 SSL Payment Manager クライアントの使用」を選択した場合、このフィールドのデフォルト値は 80 (非セキュア・ポート) です。そのチェック・ボックスを選択しなかった場合、このフィールドのデフォルト値は 443 (SSL ポート) です。

### 「Socks サーバーの使用」

WebSphere Commerce が Payment Manager と通信するために Socks サーバーが必要な場合、このチェック・ボックスを選択します。

### 「Socks ホスト名」

このフィールドは、「Socks サーバーの使用」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーの完全修飾ホスト名を入力してください。

### 「Socks ポート番号」

このフィールドは、「Socks サーバーの使用」チェック・ボックスを選択した場合に使用可能になります。Socks サーバーが使用するポート番号を入力してください。

## 「ログ・システム」

トレース・ファイルの場所:	E:\WebSphere\CommerceServer\instances\demo43\logstec
トレース・ファイル・サイズ (MB):	40
メッセージ・ファイルの場所:	E:\WebSphere\CommerceServer\instances\demo43\logstec
メッセージ・ファイル・サイズ (MB):	40
アクティビティ・ログ・キャッシュ・サイズ:	20
<input type="checkbox"/> 通知使用可能:	

### 「トレース・ファイルの場所」

これは、デバッグ情報の収集先となるファイルです。その中には、英語のデバッグ・メッセージが入ります。デフォルト場所は  
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥ ecmsg.log`  
です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じなら、それらのファイルの内容はマージされます。

### 「トレース・ファイル・サイズ」

これは、トレース・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのサイズは 40 MB です。トレース・ファイルがこのサイズに達すると、別のトレース・ファイルが作成されます。

### 「メッセージ・ファイルの場所」

これは、WebSphere Commerce システムの状態を記述するメッセージの収集先ファイルです。メッセージは、ロケールに依存します。デフォルト場所は  
`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥ ecmsg.log`  
です。

注: 「トレース・ファイルの場所」が「メッセージ・ファイルの場所」と同じなら、それらのファイルの内容はマージされます。

### 「メッセージ・ファイル・サイズ」

これは、メッセージ・ファイルの最大サイズ (MB) です。デフォルトのサイズは 40 MB です。メッセージ・ファイルがこのサイズに達すると、別のメッセージ・ファイルが作成されます。

### 「アクティビティ・ログ・キャッシュ・サイズ」

アクティビティ・ログのキャッシュの最大サイズを入力します。デフォルトのサイズは 20 MB です。

### 「通知使用可能」

エラー・レベル・メッセージが通知されるようにする場合には、このチェック・ボックスを選択します。それらのメッセージを受け取るには、WebSphere Commerce 管理コンソールでも通知情報を変更する必要があります。

## メッセージング

ユーザー・テンプレート・ファイル:	<input type="text" value="user_template.xml"/>
インバウンド・メッセージ DTD パス:	<input type="text" value="E:\WebSphere\CommerceServer\xml\m"/>
WebController ユーザー ID:	<input type="text" value="wcsadmin"/>
システム・テンプレート・ファイル:	<input type="text" value="sys_template.xml"/>
テンプレート・パス:	<input type="text" value="E:\WebSphere\CommerceServer\xml\m"/>
インバウンド・メッセージ DTD ファイル:	<input type="text" value="Update_WCS_ProductInventory_20.dtd"/>

### 「ユーザー・テンプレート・ファイル」

これは、新しいインバウンド XML メッセージがシステムでサポートされるようにするための XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルには、サポートする新しい XML メッセージごとに 1 つのアウトラインを追加する必要があります。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの user\_template.xml を使用することをお勧めします。

### 「インバウンド・メッセージ DTD パス」

これは、インバウンド XML メッセージのすべての DTD ファイルの保存先となるパスです。デフォルトは drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging です。

### 「WebController ユーザー ID」

これは、すべての WebSphere Commerce MQSeries® アダプター・インバウンド・メッセージを実行するために WebSphere Commerce が使用する ID です。この ID は、サイト管理者権限が付与されたものでなければなりません。デフォルトは wcsadmin です。ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルを更新するための権限は、許可された人だけに付与されるようにしてください。というのは、この ID の使用により WebSphere Commerce コマンドを実行するためにインバウンド XML メッセージをマッピングできるからです。

### 「システム・テンプレート・ファイル」

これは、WebSphere Commerce MQSeries アダプターによってサポートされる、すべてのインバウンド XML メッセージのアウトラインを含む XML メッセージ・テンプレート定義ファイルの名前です。このファイルは、メッセージを該当する WebSphere Commerce コントローラー・コマンドにマッピングし、メッセージ内の各フィールドをそのコマンドの該当するパラメーターにマッピングすることにより、各メッセージのデータ・フィールドを定義します。テンプレート・パス・ディレクトリーに保存されるデフォルトの `sys_template.xml` を使用することをお勧めします。

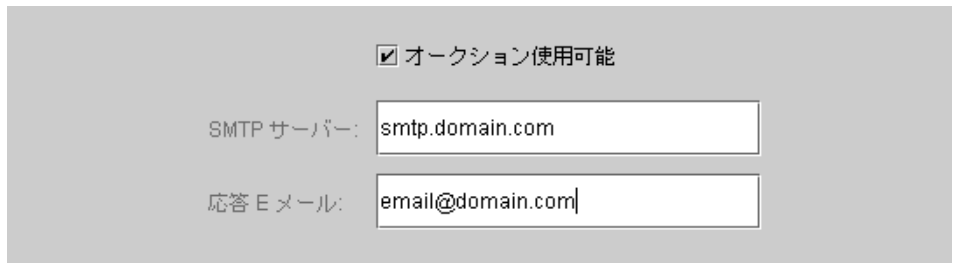
### 「テンプレート・パス」

これは、ユーザー・テンプレート・ファイルとシステム・テンプレート・ファイルの保存先のパスです。デフォルトは `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥xml¥messaging` です。

### 「インバウンド・メッセージ DTD ファイル」

これは、インバウンド XML メッセージのための DTD および組み込みファイルのリストです。新しいインバウンド XML メッセージを追加する場合は、それをこのフィールドに追加する必要があります。

## オークション



オークション使用可能

SMTP サーバー:

応答 E メール:

### 「使用可能」

オークションを使用可能にする場合、「使用可能」チェック・ボックスを選択します。

### 「SMTP サーバー」

E メール・メッセージを受け取るのに使う SMTP サーバーを定義します。

### 「応答 E メール」

送信側の E メール情報。

すべてのパネルに必要な情報を入力したなら、「終了」ボタンが使用可能になります。「終了」をクリックすると、WebSphere Commerce インスタンスが作成されます。

システムの数によって、インスタンスの作成に数分～数時間かかることがあります。インスタンス作成が開始されると進行状況表示バーが表示されます。プロセスが完了す

ると、そのことが進行状況表示バーに示されます。インスタンスが作成されると WebSphere Commerce は、そのインスタンスに関連する WebSphere Commerce Server の開始を試行します。完了したら、「OK」をクリックして、インスタンス作成ウィザードをクローズしてください。

## インスタンス作成の検証

インスタンスが正しく作成されたことを確認するには、以下のファイルを調べます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥xml¥instance_name.xml`。このファイルには、作成される WebSphere Commerce インスタンスについての構成情報がすべて入ります。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥createdb.log`。このファイルには、WebSphere Commerce データベース作成に関する情報が入ります。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥populatedb.log`。このファイルには、WebSphere Commerce データベースにデータを入れる処理に関する情報が入ります。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥WASConfig.log`。このファイルには、WebSphere Application Server 内で WebSphere Commerce の新しいインスタンスをインストールして構成する作業に関する情報が入ります。
- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥wcs.log`。このファイルは、WebSphere Commerce アプリケーション・サーバーの動作を記述するものです。このログを使用して、サーバーが正しく開始されたことを確認してください。

## 次のステップ

WebSphere Commerce インスタンスを構成し、開始し終わったら、『構成後のステップ』の説明に従ってインストールを完了する必要があります。

---

## 構成後のステップ

この章では、WebSphere Commerce の構成を完了するために行う必要のあるすべてのステップを説明します。この章で説明するタスクは以下のとおりです。

- JavaServer Pages™ ファイルのコンパイル
- WebSphere Commerce で実行できるように Payment Manager を構成する
- Payment Manager の設定を構成する
- セキュリティー・チェッカーの実行

## JavaServer Pages ファイルのコンパイル

この時点で、JavaServer Pages ファイルをコンパイルすることをお勧めします。

JavaServer Pages をコンパイルすれば、WebSphere Commerce ツールのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、以下のようにします。

1. コマンド・プロンプトで、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` に切り換えます。
2. 次のコマンドを実行します。

**注:** このコマンドでは大文字小文字が区別されます。下記に示す通りに正確に入力してください。実際に指定する `enterpriseApp` または `webModule` の名前にスペースが含まれている場合には、下記のように、名前を二重引用符で囲む必要があります。

```
WCSJspBatchCompiler -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Tools"
```

これらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーがログに記録されます。それらは、無視しても問題ありません。

## WebSphere Commerce で実行するための Payment Manager の構成

WebSphere Commerce で実行するために Payment Manager を構成するには、次のようにしなければなりません。

1. WebSphere Application Server 管理コンソールをオープンします。
2. 以下のようにして、別名を作成します。
  - a. 「**WebSphere Administrative Domain (WebSphere 管理可能ドメイン)**」を展開します。
  - b. 「**Virtual Hosts (仮想ホスト)**」を選択します。
  - c. 右側のパネルで `default_host` を選択します。
  - d. 「**General (一般)**」タブの「**Add (追加)**」をクリックします。
  - e. 「**Alias (別名)**」フィールドに `*:443` と入力してから、「**Apply (適用)**」をクリックします。
3. コマンド・ウィンドウを開いて、次のディレクトリーに移動します。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥bin
```

4. 以下のコマンドを入力します。

```
GenPluginCfg.bat -adminNodeName node_name
```

`node_name` は、ノードの短い論理名です。

5. WebSphere Application Server を停止します。WebSphere Application Server を停止するには、次のようにします。

- a. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
  - b. 「サービス」ウィンドウから、「**IBM WS AdminServer 4.0**」を選択します。
  - c. 「**Stop (停止)**」をクリックします。
6. テキスト・エディターで以下のファイルを開きます。  
`drive:¥WebSphere¥AppServer¥config¥plugin-cfg.xml`
  7. plugin-cfg.xml ファイルの <Config> の下に、以下の行を直接追加します。  
`<Property name="CacheLibrary" value="drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin¥wccache.dll" />`
  8. WebSphere Application Server 管理コンソールを終了します。
  9. IBM HTTP Server を停止して再始動します。IBM HTTP Server を停止するには、以下のようにします。
    - a. 「**Services (サービス)**」リストから、「**IBM HTTP Server**」を選択します。
    - b. 「**Stop (停止)**」をクリックします。サービスを停止するかどうか確認を求められたら、「はい」をクリックします。

IBM HTTP Server を開始するには、以下のようにします。

    - a. 「**Services (サービス)**」リストから、「**IBM HTTP Server**」を選択します。
    - b. 「**開始**」をクリックします。

#### 重要

Payment Manager を使用する前に、少なくとも 1 度は WebSphere Commerce 管理コンソールにログインすることをお勧めします。WebSphere Commerce 管理コンソールにログインするには、「スタート」メニューから「**プログラム**」→「**IBM WebSphere Commerce**」→「**管理コンソール**」を選択します。デフォルトの管理コンソール・ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。

## Payment Manager の設定を構成する

Payment Manager のユーザー・インターフェースを使用する前に、WebSphere Commerce と Payment Manager が実行中であることを確認してください。

Payment Manager を構成するには、以下のようにします。

1. 「スタート」メニューから、「**プログラム**」→「**WebSphere Payment Manager**」→「**Payment Manager Logon (Payment Manager ログオン)**」を選択します。
2. Payment Manager にログオンします。
3. 「**Payment Manager Settings (Payment Manager 設定)**」を選択します。



4. Payment Manager ユーザー・インターフェースの「**Payment Manager Settings (Payment Manager 設定)**」パネルでリストされているホスト名が、完全修飾ホスト名であることを確認してください。そうでない場合には、ホスト名フィールドを完全修飾ホスト名に変更しなければなりません。その後「**Update (更新)**」をクリックし、「**Disable Payment Manager (Payment Manager を使用不可にする)**」をクリックしてから、「**Enable Payment Manager (Payment Manager を使用可能にする)**」をクリックしてください。

## セキュリティ・チェッカーの実行

ここでは、WebSphere Commerce のセキュリティ・チェック・ツールによってシステムのセキュリティをチェックする方法について説明します。セキュリティ・チェック・ツール (セキュリティ・チェッカー) は、システムに機密漏れがないかどうかをチェックし、削除するべきファイルを識別し、機密情報を含むファイルの許可と所有権を確認し、IBM HTTP Server および WebSphere Application Server 内のセキュリティ・レベルをチェックします。

セキュリティ・チェック・ツールを使用するには、次のようにします。

1. 「スタート」メニューから「**プログラム**」 → 「**IBM WebSphere Commerce**」 → 「**管理コンソール**」を選択します。デフォルトの管理コンソール・ユーザー ID (wcsadmin) とデフォルトのパスワード (wcsadmin) を入力します。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。
2. 「サイト / ストアの選択」ページから「**サイト**」を選択し、「**OK**」をクリックします。
3. 管理コンソールで、「**Security (セキュリティ)**」メニューから「**Security Checker (セキュリティ・チェッカー)**」を選択します。
4. セキュリティ・チェッカーには、セキュリティ・チェッカーを起動する「**立ち上げ**」ボタンと、最後に実行されたセキュリティ・チェックの結果が表示されます。構成マネージャーのパラメーターが正しく構成されていれば、「No security exposures found.」というメッセージが表示されます。
5. このツールの実行が完了したら、「**OK**」をクリックします。

セキュリティ・チェッカー・ツールを実行すると、以下のログが作成されます。

- `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥logs¥sec_check.log`。このファイルには、機密漏れの可能性に関する情報が入ります。

## 次のステップ

WebSphere Commerce の構成を完了するために必要なステップがすべて終わったら、ストア・サービスを使って、独自のストアを作成して発行することができます。このタスクを行う方法については、37ページの『サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する』を参照してください。



---

## 第 4 章 WebSphere Commerce によるストアの作成

---

### サンプル・ストア・アーカイブからストアを作成する

この章では、WebSphere Commerce に付属のストア・アーカイブの 1 つからサンプル・ストアを作成するプロセスを示します。さらに別のストアの作成方法やストアのカスタマイズについては、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプをご覧ください。

WebSphere Commerce において、オンライン・ストアを作成するための最も速くて簡単な方法は、WebSphere Commerce に付属のサンプル・ストアの 1 つを使用し、ストア・サービスで利用できるブラウザー・ベースのツールを使用することです。サンプル・ストアは、ストア・アーカイブとして提供されています。

ストア・アーカイブは、ストアの作成に必要な資産すべて (Web 資産やデータベース資産を含む) が含まれている圧縮ファイルです。独自のストアを作成するには、サンプル・ストア・サービスの 1 つに基づいて、ストア・サービスのツールを使用して新しいストア・アーカイブを作成します。新しいストア・アーカイブはサンプル・ストア・アーカイブに基づくものなので、それはサンプル・ストア・アーカイブに含まれる資産の正確なコピーを、新しいファイル名およびディレクトリー構造で保存したものです。

この時点で、2 種類の選択肢があります。つまり、ストア・アーカイブをコマース・サーバーに対して発行することによりサンプル・ストアの 1 つに基づく機能的ストアを作成する方法と、まず新しいストア・アーカイブに変更を加えてから、それをサーバーに対して発行する方法です。

ストア・アーカイブ中のデータベース情報を変更するには、資産を直接編集するか、またはストア・サービスのツール (「ストア・プロファイル」ノートブック、「税」ノートブック、および「配送」ノートブック) を使います。

ストア・アーカイブに含まれる Web 資産 (ストア・ページ) を変更したり、新しい Web 資産を作成したりするには、WebSphere Commerce Studio のツール、またはその他の選択したツールを使用します。

ストアの作成については、*IBM WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

サンプル・ストアのいずれかを使用してストアを作成するには、以下のようになります。

1. ストア・アーカイブを作成します。
2. ストア・アーカイブを発行します。

## ストア・アーカイブの作成

サンプル・ストアのいずれかを使用してストア・アーカイブを作成するには、以下のようになります。

1. 以下のサービスが実行中であることを確認してください。
  - DB2-DB2
  - DB2-DB2DAS00
  - IBM HTTP Administration
  - IBM HTTP Server
  - IBM WS AdminServer 4.0
  - WebSphere Commerce Server - *instance\_name*
2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始済みであることを確認してください。
3. 次のようにして Payment Manager を開始します。
  - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに移動します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートにインストールされている場合には、次のコマンドを使用して開始します。

```
IBMPayServer -pmhost fully_qualified_Web_server_host_name
```


Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは、Payment Manager データベースとの接続時に指定したユーザーのパスワードです。

4. 「スタート」メニューから、「プログラム」→「IBM WebSphere Commerce」→「ストア・サービス」を選択します。「ストア・サービス・ログオン」ページが表示されます。インスタンス管理者のユーザー ID とパスワードを入力してから、「Log on (ログオン)」をクリックします。初回ログイン時に、パスワードを変更するよう促されます。
5. 「ストア・アーカイブの作成」ページが表示されます。「ストア・アーカイブ」フィールドに、ストア・アーカイブの名前を入力します。入力した名前には .sar という拡張子が追加されます (たとえば、Mystore.sar)。この名前がストア・アーカイブのファイル名になります。ストア・アーカイブの作成が終了すると、それは以下の場所に保管されます。

```
drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥sar
```

6. 「ストア・ディレクトリー」フィールドに、ストアのディレクトリー名を入力します。このディレクトリー名は、サーバー上で Web 資産の発行先となるディレクトリーを定義するものです。ストア・アーカイブが発行されると、デフォルトとして、それはここで定義するストア・ディレクトリーに発行されます。たとえば、「ストア・ディレクトリー」フィールドにディレクトリー名 "Mystore" を入力した場合、以下のディレクトリーが作成されます。

```
drive:¥WebSphere¥AppServer¥installedApps¥WC_Enterprise_App_
instance_name.ear¥wcstores.war¥Mystore
```

7.  「ストア所有者」ドロップダウン・リストから、ストアを所有する組織を選択します (たとえば、「Seller Organization (セラー組織)」)。

注: 「デフォルト組織」は、バイヤー組織を持たない顧客のために提供されています。デフォルト選択をストア所有者として選択しないでください。

8. 「View (表示)」ドロップダウン・リストから、表示したいサンプル・ストアを選択します。
9. 「サンプル」リスト・ボックスから、ストアの基本となるストア・アーカイブを選択します。「サンプルの説明」ボックスに、サンプルの説明が表示されます。サンプル・ストアをまず表示するには、「プレビュー」をクリックします。
10. 「OK」をクリックします。
11. ストア・アーカイブの作成が正常に完了したことを知らせるダイアログ・ボックスがオープンします。「OK」をクリックします。
12. 「ストア・アーカイブの発行」リストが表示されます。作成したストア・アーカイブがリスト中に表示されており、「ストア名」フィールドの名前がサンプル・ストアの名前と同じであることを注意してください。この名前は、「ストア・プロフィール」ノートブックを使って変更できます。

これで、サンプル・ストアに基づく新しいストア・アーカイブが作成されました。その結果、新しいストア・アーカイブには、サンプル・ストアと同じ内容が含まれることになります。独自のストアを作成する場合は、その情報を変更することになります。その情報を変更する方法については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプと *IBM WebSphere Commerce* ストア開発者ガイド をご覧ください。このマニュアルでは、今のところその情報を変更しないでおいてください。

## ストア・アーカイブの発行

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブの発行には、2 種類の方法があります。

- ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する
- コマンド行からストア・アーカイブを発行する

ここでは、ストア・サービスからの発行についてのみ説明します。発行については、WebSphere Commerce のオンライン・ヘルプ、および *IBM WebSphere Commerce ストア開発者ガイド* をご覧ください。

## ストア・サービスからストア・アーカイブを発行する

ストア・アーカイブを WebSphere Commerce Server に対して発行すると、実際に稼働するストアを作成できます。ストア・アーカイブを発行するには、以下のようになります。

1. 以下のサービスが実行中であることを確認してください。

- DB2-DB2
- DB2-DB2DAS00
- IBM HTTP Administration
- IBM HTTP Server
- IBM WS AdminServer 4.0
- Websphere Commerce Server - *instance\_name*

**注:** WebSphere Commerce Server *instance\_name* が実行中かどうかを調べるには、WebSphere Application Server 管理コンソールを確認します。

2. WebSphere Application Server 管理コンソールで Payment Manager Application Server が開始済みであることを確認してください。
3. Payment Manager が実行中でなければ、次のようにして IBM Payment Manager を始動します。
  - a. コマンド・ウィンドウを開き、IBM Payment Manager がインストールされているディレクトリーに移動します。
  - b. 以下のコマンドを入力します。

```
IBMPayServer
```

Payment Manager が Web サーバーからリモートにインストールされている場合には、次のコマンドを使用して開始します。

```
IBMPayServer -pmhost fully_qualified_web_server_host_name
```

Payment Manager のパスワードを入力するためのプロンプトが表示されます。これは、*payman* データベースに接続する際に使用するよう指定したユーザーのパスワードです。

4. サイト管理者またはストア管理者のアクセス権が必要です。ストア管理者のアクセス権が付与されている場合は、すべてのストアに対するアクセス権があることを確認してください。
5. 「ストア・サービス」の「ストア・アーカイブ」リストで、発行したいストア・アーカイブの横のチェック・ボックスを選択します。

6. 「発行」をクリックします。「ストア・アーカイブの発行」ページが表示されます。
7. 発行オプションを選択します。発行オプションについては、「ヘルプ」をご覧ください。

**注:**十分に機能するストアを作成するためには、ストア・アーカイブを初めて発行する時点で、商品データ・オプションを含むすべての発行オプションを選択してください。

8. 「OK」をクリックします。ストアが発行されると、「ストア・アーカイブ」リストのページに戻ります。「発行の状況」の列に、発行の状態が示されます。システムの速度によって、発行プロセスに数分かかることがあります。「最新表示」をクリックすると、状況が更新されます。
9. リストからストア・アーカイブを選択し、「発行の要約」をクリックすると、発行の結果が表示されます。
10. 発行が完了したら、「ストアの立ち上げ」をクリックしてストアを表示し、テストしてください。完了したら、そのサイトにブックマークを付けてブラウザをクローズします。

**JavaServer Pages ファイルのコンパイル:** JavaServer Pages をコンパイルすれば、ストアのロードにかかる時間が大幅に短縮されます。JavaServer Pages (JSP) ファイルのバッチ・コンパイルを実行するには、WebSphere Commerce マシンで次のようにします。

1. コマンド・プロンプトで、`drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥bin` に切り換ええます。
2. 次のコマンドを実行します。

**注:** このコマンドでは大文字小文字が区別されます。下記に示す通りに正確に入力してください。実際に指定する `enterpriseApp` または `webModule` の名前にスペースが含まれている場合には、下記のように、名前を二重引用符で囲む必要があります。

```
WCSJspBatchCompiler -enterpriseApp "WebSphere  
Commerce Enterprise Application - instance_name"  
-webModule "WCS Stores"
```

それらのコンパイルを実行すると、いくつかのエラーが発生することがあります。それらは、無視しても問題ありません。

**重要:**

- 発行できるストア・アーカイブは、一度に 1 つだけです。複数同時の発行はサポートされておらず、同時発行すると、どのストアの発行も失敗します。
- 発行中に、整合性検査ルーチンにより、ストア・アーカイブによって参照されているファイルが存在するかどうかを確認されます。エラーがあると、ログにそのエラーが書き込まれます。発行は、通常のとおり継続されます。

- ストアを再発行する場合は、その前にディレクトリー `drive:¥WebSphere¥CommerceServer¥instances¥instance_name¥cache` からファイルを削除してください。

ストア開発段階では、キャッシングをオフにしてください。そうするには、構成マネージャの「Caching (キャッシング)」パネルをオープンして、「Enable Cache (キャッシュの使用可能化)」が選択解除されていることを確認します。

- ストア・サービスからストアを立ち上げる場合、ストア・サービスへのログインで使ったのと同じユーザー名とパスワードを使用してストアにログインします。ストアでパスワードを変更すると、そのユーザーのパスワードも変更することになります。むしろ、パスワード変更操作などのストアの機能をテストするには、そのサイトをブックマークに登録し、ブラウザをクローズしてから、再びストアにログオンしてください。さらに、ブラウザで以下の URL を入力することによって、ストアを立ち上げることもできます。

`https://host_name/webapp/wcs/stores/store_directory/index.jsp`

## ストアにテスト・オーダーを発行する

ストアにテスト・オーダーを発行するには、以下のようにします。

1. 以下のようにして、ストアをオープンします。
  - a. 「ストア・サービス」ウィンドウで、特定のストアを選択して「発行の要約」をクリックします。
  - b. 「発行の要約」画面で、「ストアの立ち上げ」を選択します。
  - c. ストアの Web アプリケーション Web パスを入力するためのウィンドウが表示されます。該当するパスを入力してください (デフォルトは `/webapp/wcs/stores`)。
  - d. ストアの場所を Web ブラウザーのブックマークに登録します。
  - e. 表示されているすべての Web ブラウザー・ウィンドウを閉じてから、改めて Web ブラウザーを開きます。
  - f. ストアのホーム・ページにナビゲートします。
2. ホーム・ページで、商品を選択します。商品ページで、「ショッピング・カートに追加」をクリックします。
3. オーダー・プロセスを完了します。テストとして、VISA クレジット・カードの番号 0000000000000000 (16 個のゼロ) を使用できるでしょう。オーダーが完了していれば、オーダーの確認のページが表示されます。



---

## 付録 A. 情報の入手場所

WebSphere Commerce システムとそのコンポーネントに関するさらに詳しい情報は、さまざまな情報源からさまざまな形式で入手できます。この後の部分では、利用できる情報と利用方法を示します。

---

### WebSphere Commerce の情報

以下は、WebSphere Commerce に関する情報源です。

- WebSphere Commerce オンライン・ヘルプ
- WebSphere Commerce PDF (Portable Document Format) ファイル
- WebSphere Commerce Web サイト

### オンライン・ヘルプの使用

WebSphere Commerce のオンライン情報は、WebSphere Commerce のカスタマイズ、管理、および再構成に関する主要な情報源です。WebSphere Commerce のインストール後、以下に示すいずれかの方法で情報を利用できます。

**注:** WebSphere Commerce オンライン情報は、インストール・プロセスの際に WebSphere Commerce ドキュメンテーション・オプションを選択した場合にのみ利用できます。

- 「スタート」→「プログラム」→「IBM WebSphere Commerce」→「ドキュメンテーション」を選択します。
- ブラウザーをオープンして、以下の Web アドレスを入力します。

`http://host_name/wchelp`

*host\_name* は、WebSphere Commerce のインストール先マシンの完全修飾 TCP/IP 名です。

### 印刷可能なドキュメンテーションの入手方法

一部のオンライン情報は、PDF ファイルの形式で利用することもできます。PDF ファイルは Adobe® Acrobat® Reader を使って表示および印刷できます。Acrobat Reader は、Adobe Web サイトから無料でダウンロードできます。Web アドレスは以下のとおりです。

`http://www.adobe.com`

## WebSphere Commerce Web サイトの閲覧

WebSphere Commerce 製品に関する情報は、以下の WebSphere Commerce Web サイトで入手できます。

- Business Edition:

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc\\_be/lit-tech-general.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/lit-tech-general.html)

- Professional Edition:

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc\\_pe/lit-tech-general.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_pe/lit-tech-general.html)

このマニュアル (すべてのアップデート・バージョンを含む) は、WebSphere Commerce Web サイトの「Library」セクションから PDF ファイル形式で入手できます。さらに、新しい資料や更新された資料をこの Web サイトから入手できる場合もあります。

---

## IBM HTTP Server の情報

IBM HTTP Server の情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/httpservers/>

資料は、HTML 形式、PDF ファイル、あるいはその両方で入手できます。

---

## Payment Manager の情報

Payment Manager に関する追加情報は、以下の Payment Manager Web サイトのライブラリー・リンクから入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/payment>

Payment Manager のドキュメンテーションは、以下の場所で入手できます。

- IBM Payment Manager 3.1.2 の CD の %docs%locale ディレクトリー
- IBM Payment Manager 3.1.2 カセット CD の %docs%locale ディレクトリー
- 以下の場所にインストールされます。

```
drive:%WebSphere%AppServer%InstalledApps%PaymentManager.ear%  
PaymentManager.war%locale
```

Payment Manager のドキュメンテーションとしては、以下のものを利用できます。

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* インストール・ガイド (PDF ファイル形式、paymgrinstall.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager* 管理者ガイド (PDF ファイル形式、paymgradmin.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms* プログラマーのガイドとリファレンス (PDF ファイル形式、paymgrprog.pdf)

- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for SET* 補足 (PDF ファイル形式、paymgrset.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms Cassette for VisaNet Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrvisanet.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for CyberCash* 補足 (PDF ファイル形式、paymgrcyber.pdf)
- *IBM WebSphere Payment Manager for Multiplatforms for BankServACH Supplement* (PDF ファイル形式、paymgrbank.pdf)
- Payment Manager の README ファイル (HTML 形式、readme.framework.html)
- IBM Cassette for SET の README ファイル (HTML 形式、readme.set.html)
- IBM Cassette for VisaNet README ファイル (HTML 形式、readme.visanet.html)
- IBM Cassette for CyberCash README ファイル (HTML 形式、readme.cybercash.html)
- IBM Cassette for BankServACH README ファイル (HTML 形式、readme.bankservach.html)

WebSphere Commerce オンライン・ヘルプの「*Secure Electronic Transactions*」セクションにも、Payment Manager に関する情報が含まれています。

---

## WebSphere Application Server

WebSphere Application Server に関する情報は、以下の WebSphere Application Server Web サイトで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/webservers/appserv>

---

## DB2 ユニバーサル・データベースの情報

DB2 に関する情報は、DB2 のインストール後に、システム上にあります。これを利用するには、「スタート」、「プログラム」、「**DB2 for Windows NT**」または「**DB2 for Windows 2000**」をポイントして、「情報センター」をクリックします。

最新の情報については、RELEASE.TXT ファイルをご覧ください。このファイルは、製品のインストール先ディレクトリーにあります。

入手可能な DB2 の資料のリスト、およびそれを表示したり印刷したりする方法については、*DB2 概説およびインストール (Windows 版)* のマニュアルをご覧ください。DB2 の追加情報は、以下の Web アドレスで入手できます。

<http://www.ibm.com/software/data/db2>

---

## ダウンロード可能なツール

### WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker

WebSphere Commerce Installation and Configuration Checker (IC Checker) は、スタンドアロンのダウンロード可能な問題判別ツールです。これを使用して、WebSphere Commerce のインストールと構成を検査することができます。IC Checker は構成データとログを収集して、簡単なエラー検査を実行します。以下に、WebSphere Commerce IC Checker についての説明を示します。

- 現在サポートされている製品は、WebSphere Commerce Suite 5.1 Start Edition と Pro Edition、WebSphere Commerce 5.1 Business Edition、および WebSphere Commerce 5.4 Professional Edition と Business Edition です。
- このツールは、以下の URL でアクセスしてダウンロードすることができます。

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats\\_new\\_support.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/whats_new_support.html)

[http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc\\_be/support-tools.html](http://www.ibm.com/software/webservers/commerce/wc_be/support-tools.html)

---

## その他の IBM 出版物

ほとんどの IBM 出版物は、IBM 指定販売業者または IBM の営業担当員にお問い合わせいただくことにより、購入できます。

---

## 付録 B. プログラム仕様と所定稼働環境

このバージョンの WebSphere Commerce では、以下の稼働環境がサポートされています。

- Windows NT Server 4.0、Service Pack 6a
- Windows 2000 Server または Advanced Server

WebSphere Commerce 5.4 には、以下のコンポーネントが含まれています。

### WebSphere Commerce Server

WebSphere Commerce Server は、e-commerce ソリューション内のストアおよびコマース関連機能を処理します。以下のコンポーネントによって機能が提供されています。

- ツール (ストア・サービス、ローダー・パッケージ、Commerce Accelerator、管理コンソール)
- サブシステム (カタログ、メンバー、ネゴシエーション、オーダー)
- 商品アドバイザー
- 共通サーバー・ランタイム
- システム管理
- メッセージング・サービス
- WebSphere Application Server

### ストア・サービス

ストア・サービスは、ストアの特定の運用機能を作成したり、カスタマイズしたり保守するための中心点を提供します。

### ローダー・パッケージ

ローダー・パッケージを使用すると、ASCII および XML ファイルによる商品情報の初期ロードが可能になります。また、全体情報、または部分的な情報のインクリメンタル更新もできます。オンライン・カタログを更新するには、このツールを使用します。

### WebSphere Commerce Accelerator

ストア・データおよび商品データが作成されたら、それを WebSphere Commerce Accelerator で使用して、ストアを管理し、ビジネス戦略を促進します。WebSphere Commerce Accelerator は、WebSphere Commerce がオンライン・ストアを運営するために配布するすべての機能 (ストア管理、商品管理、マーケティング、顧客のオーダー、顧客サービスなど) のための統合ポイントを提供します。

## **WebSphere Commerce 管理コンソール**

サイト管理者またはストア管理者は、管理コンソールを使うことによって、サイトおよびストアの構成に関連したタスクを実行できます。

- ユーザーおよびグループの管理 (アクセス・コントロール)
- パフォーマンス・モニター
- メッセージングの構成
- IBM WebSphere Payment Manager の機能
- Brokat Blaze Rules の管理

WebSphere Commerce 5.4 には、以下の製品がバンドルおよびサポートされています。

### **IBM DB2 ユニバーサル・データベース 7.1.0.55**

DB2 ユニバーサル・データベースは、サイトに関するあらゆる情報のリポジトリとして、WebSphere Commerce によって使用される、機能の充実したリレーショナル・データベースです。それには、商品データとカテゴリー・データ、ページのグラフィック・エレメントへのポインター、オーダー状況、住所情報、その他の多岐にわたるデータが含まれます。

### **DB2 エクステンダー**

DB2 エクステンダーは DB2 のオプション・コンポーネントであり、サイトのための付加的な検索機能を提供します。DB2 テキスト・エクステンダーは、顧客による多種多様な検索をサポートします。それには、同義語検索、不完全一致や類似語の検索、そしてブール検索やワイルドカード検索が含まれます。

### **IBM HTTP Server 1.3.19.1**

IBM HTTP Server は、さまざまな管理機能を提供する堅固な Web サーバーです。提供される機能には、Java デプロイメントのサポート、プロキシ・サーバーのサービス、そしてクライアント / サーバーの認証やデータ暗号化などの SSL 3 のサポートを含むセキュリティー機能が含まれます。

### **IBM Payment Manager 3.1.2**

Payment Manager は、SET (Secure Electronic Transaction) や Merchant Initiated Authorization など、さまざまな方法を使用したマーチャント用リアルタイム・インターネット支払い処理を提供します。

### **WebSphere Application Server 4.0.2**

WebSphere Application Server は、インターネットおよびイントラネット Web アプリケーションを作成、デプロイ、管理するための Java ベースのアプリケーション環境です。この製品には IBM Developer Kit for Windows、Java 2 Technology Edition、v1.3 が含まれています。

### **IBM WebSphere Commerce Analyzer 5.4**

IBM WebSphere Commerce Analyzer は、WebSphere Commerce のオプションとしてインストールされる新しい機能です。IBM WebSphere Commerce Analyzer のエントリー版 (WebSphere Commerce 専用) は、顧客プロファイル

やキャンペーン・パフォーマンスのモニターのためのレポート機能を提供します。レポートはカスタマイズできません。IBM WebSphere Commerce Analyzer は、Brio Broadcast Server がなければインストールできません。

### **Brio Broadcast Server**

Brio Broadcast Server は、照会の処理およびレポートの配布を自動化するバッチ処理サーバーです。Brio Broadcast Server は大量のデータを大勢の人々に配布できますが、セキュリティ保護が製品に組み込まれているので、管理者はデータベースへのアクセスおよび文書の配布を厳重に制御できます。

### **IBM SecureWay Directory Server 3.2.1**

IBM SecureWay<sup>®</sup> Directory は、アプリケーション固有のディレクトリーの急増(コストの増加の主要な要因となる)を解消するための共通ディレクトリーを提供します。IBM SecureWay Directory は、LDAP のクロス・プラットフォームであり、セキュリティおよび e-business ソリューションに対して、高度にスケーラブルで、堅固なディレクトリー・サーバーです。WebSphere Commerce に付属の SecureWay のバージョンは 3.1.1.5 ですが、現在では、Web からダウンロード可能な IBM SecureWay Directory Server 3.2.1 がサポートされています。

### **Segue SilkPreview 1.0**

Segue SilkPreview は、アプリケーション開発の総合的な結果分析とレポートのための情報リポジトリーです。

### **WebSphere Commerce 5.4 Recommendation Engine powered by LikeMinds**

Macromedia LikeMinds は、個々の Web 利用者に対して、商品推奨とターゲットを絞った販売促進を行います。これは、共同フィルター操作および市場バスケット分析に基づく、Personalization サーバーです。





---

## 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものであり、米国以外の国においては本書で述べる製品、サービス、またはプログラムを提供しない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品、プログラムまたはサービスの操作性の評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。IBM 製品、プログラムまたはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等のプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、他社の製品と組み合わせた場合の動作の評価と検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む。）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に書面にてご照会ください。

〒106-0032 東京都港区六本木 3-2-31

IBM World Trade Asia Corporation

Licensing

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。

IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

本書は定期的に見直され、必要な変更（たとえば、技術的に不適切な表現や誤植など）は、本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

IBM Canada Ltd.  
Office of the Lab Director  
8200 Warden Avenue  
Markham, Ontario  
L6G 1C7  
Canada

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのもと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

IBM の将来の方向または意向に関する記述については、予告なしに変更または撤回される場合があります、単に目標を示しているものです。

本書はプランニング目的としてのみ記述されています。記述内容は製品が使用可能になる前に変更になる場合があります。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

この製品で使用されているクレジット・カードのイメージ、商標、商号は、そのクレジット・カードを利用して支払うことを、それら商標等の所有者によって許可された人のみが、使用することができます。

---

## 商標

以下は、IBM Corporation の商標です。

WebSphere	DB2	DB2 Extenders
DB2 Universal Database	VisualAge	IBM
SecureWay		

Notes、および Lotus は、Lotus Development Corporation の商標です。

Microsoft、Windows、Windows NT および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

Action Media、LANDesk、MMX、Pentium および ProShare は、Intel Corporation の米国およびその他の国における商標です。

SET、SET ロゴ、SET Secure Electronic Transaction および Secure Electronic Transaction は、SET Secure Electronic Transaction LLC の商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は、The Open Group がライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。

他の会社名、製品名およびサービス名などはそれぞれ各社の商標または登録商標です。







部品番号: CT0MAJA

Printed in Japan

GC88-9274-00



日本アイ・ビー・エム株式会社  
〒106-8711 東京都港区六本木3-2-12

(1P) P/N: CT0MAJA

